

第7期ひろしま高齢者プラン

7 備北圏域

検討事項

医療と介護の連携に関する広域的な課題と対策

「病院完結型」の医療から地域全体で治し、支える「地域完結型」の医療へ転換することで、身近な地域で医療・介護サービスを受けることができ、高齢者が生活の質の維持改善できる体制を整備する必要があります。これを実現するためには、医療と介護が連携し、限られた医療・介護資源をいかに効率的・効果的に活用するかが重要です。

このため、急速な少子高齢化と人口減少が進み、また地域資源も限られている当圏域において、医療・介護の連携に関し、次の視点から備北地域保健対策協議会地域包括ケア支援専門部会（ワーキング会議）において検討しました。

- (1) 市町の枠を越えて取り組んだ方が効率的な課題
- (2) 市町と圏域が連動して取り組んだ方が効果的な課題

目指す姿

必要な医療・介護サービスを適切に利用できることにより、最期まで暮らし続けることができる備北老人福祉圏域の実現を目指します。

【現状】

- 総人口は、平成 22（2010）年の 96,849 人から徐々に減少しています。
- 一方、65 歳以上の高齢者人口は、平成 27（2015）年まで増え続け、その後、徐々に減少していきませんが、人口減少に伴い、平成 52（2040）年には、総人口に占める割合が再び 42.2% まで増加すると見込まれています。
- また、75 歳以上の後期高齢者人口も増加を続け、平成 42（2030）年には 20,749 人でピークになり、総人口に占める割合は 27.7% になります。
- 面積は 2,025 ㎢ で県全体の 23.9% を占め、管内の人口は 90,128 人（平成 29（2017）年 1 月 1 日現在）で、県内の総人口の 3.2% です。人口密度は、1 ㎢ 当たり 44.5 人で、県内でも人口密度の低い地域であるとともに、一部では冬に積雪が 1m を超えるなど、地理的・気象的条件が厳しい地域を含んでいます。
- 平成 25（2013）年 10 月現在、病院数は 11 施設（人口 10 万人当たり 11.6 施設）で、全国平均 6.7 施設を 4.9 上回っています。また、一般診療所は、98 施設（人口 10 万人当たり 103.1 施設）で、そのうち有床診療所は 14 施設（人口 10 万人当たり 14.7 施設）です。
- 平成 29（2017）年 2 月 1 日現在、在宅療養支援病院は 1 施設（庄原市）、在宅療養支援診療所は 21 施設であり、在宅医療推進医は 11 名です。
- 平成 26（2014）年度末療養病床及び介護保険施設等・高齢者向け住まいの定員数は、3,068 人であり、そのうち介護保険関係施設は介護療養型医療施設 94 床、介護老人保健施設 495 人、介護老人福祉施設 875 人、合計 1,464 人です。
- 訪問看護ステーションは 10 事業所あり、平成 27（2015）年度からの 2 年間で 2 事業所増えています。訪問介護事業所は 25 事業所で、日常生活圏域（三次市 5 圏域、庄原市 7 圏域）ごとに少なくとも 1 事業所あります。また、定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所は 2 事業所、小規模多機能居宅介護事業所は 14 事業所で、各日常生活圏域に設置できていない状

況です。

- 高齢者の死亡者数は年々増加しています。また、死亡場所は病院や診療所が75.9%で最も多く、自宅や施設は21.3%で、県内の他老人福祉圏域や県平均と比べ同様の割合です。
- 社会資源の種類や量は限られていますが、地域住民のむすびつきが強く地域の見守りや支え合いのネットワークが機能しています。また、各地域での住民地区組織等が活発に地域づくりに取り組んでいます。
- 関係機関や関係者の取組により、医療と介護を包括する専門職のネットワーク（広島県備北保健医療福祉推進協議会、三次・庄原地区多職種連携会議）が存在し、継続的に活動を続けていると同時に、多くの専門職が「顔の見える関係」を構築し連携を保ちながら業務を行っています。

表 4-21 人口・高齢者数の推計

区 分	平成 22 年 (2010)	平成 27 年 (2015)	平成 32 年 (2020)	平成 37 年 (2025)
備北圏域総人口	96,849	91,269	85,708	80,126
15～64 歳	52,151	46,405	42,140	38,872
対総人口 (%)	53.0	50.0	49.0	48.0
65 歳以上	33,018	34,144	33,963	32,683
対総人口 (%)	34.1	37.4	39.6	40.8
75 歳以上	20,425	20,400	19,811	20,694
対総人口 (%)	21.1	22.4	23.1	25.8

区 分	平成 42 年 (2030)	平成 47 年 (2035)	平成 52 年 (2040)
備北圏域総人口	74,798	69,777	64,856
15～64 歳	36,523	33,998	30,698
対総人口 (%)	48.0	48.0	47.0
65 歳以上	30,559	28,618	27,392
対総人口 (%)	40.9	41.0	42.2
75 歳以上	20,749	19,972	18,284
対総人口 (%)	27.7	28.6	28.2

※出典：平成 22(2010)年は総務省「国勢調査」。平成 27(2015)年以降は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(平成 25(2013)年 3 月推計)

表 4-22 市別主要指標

区 分	備北圏域			広島県
		三次市	庄原市	
面積 (km ²)	2,024.63	778.14	1,246.49	8,479.38
世帯数 (世帯)	39,005	23,399	15,606	1,272,074
総人口 (人)	90,128	53,490	36,638	2,812,091
人口密度 (人/km ²)	44.5	68.7	29.4	331.6

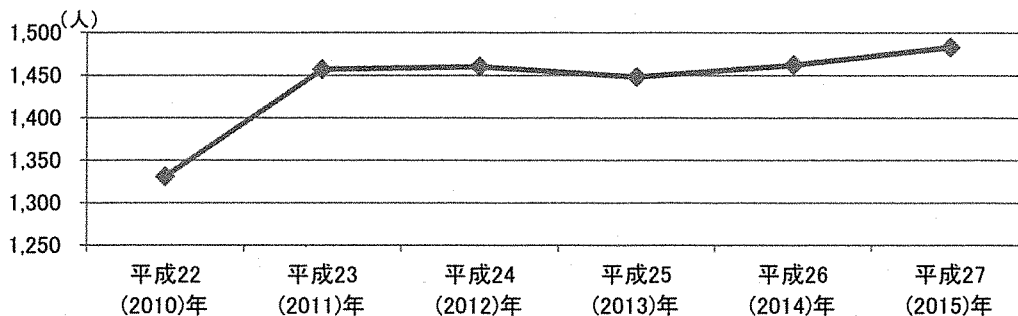
※出典：面積は国土交通省国土地理院「全国都道府県市区町村別面積」(平成 28(2016)年度)。世帯数、総人口は総務省「住民基本台帳年報」(平成 29(2017)年 1 月 1 日現在)。

表 4-23 病院施設数及び病院病床数

	病院施設数			病院病床数					
	一般病院	精神科病院		一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床	
備北圏域	11	11	-	1,823	830	758	235	-	-
	11.6	11.6	-	1,917.4	873.0	797.3	247.2	-	-
広島県	248	217	31	40,853	21,401	10,196	9,039	155	62
	8.7	7.6	1.1	1,438.5	753.6	359.0	318.3	5.5	2.2
全国	8,540	7,474	1,066	1,573,772	897,380	328,195	339,780	6,602	1,815
	6.7	5.9	0.8	1,236.3	704.9	257.8	266.9	5.2	1.4

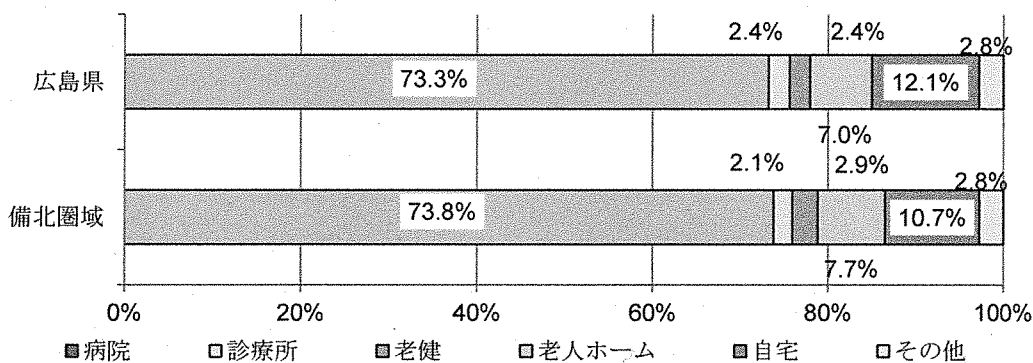
※上段は実数、下段は人口 10 万対の数値を表す。
 ※出典：厚生労働省「医療施設調査」（平成 25（2013）年）

図 4-8 備北圏域における死亡者数の推移（65 歳以上）



※出典：厚生労働省「人口動態統計年報」（平成 27（2015）年）

図 4-9 死亡者の死亡場所



※出典：厚生労働省「人口動態統計年報」（平成 27（2015）年）

【課題】

- 広大な面積を有し高齢者世帯も多く、一部地域では民家が点在しており、医療・介護サービス提供が容易でない地域もあることから、既存の医療・介護資源の効果的・効率的な活用と質の向上を図る必要があります。
- 医療制度や介護制度・報酬体系また医療・介護の種類やそれぞれの機能等について、お互いの理解や周知が十分でないため、より円滑・適切な連携を図るための意思疎通や共有すべき情報等に相違が生じる時があります。
- 介護保険事業所は全ての事業種別において組織化が進んでいないことにより、資質向上のための取組や情報提供、情報伝達等、横のつながりを確保しにくい状況があります。そのため、市を越えた医療・介護資源に関する情報の共有と見える化の必要があります。
- ケアマネジメントを行う介護支援専門員の業務は、医療と介護をつなぐ重要な業務です。在宅生活を支援する中での役割も大きく、今後も役割が果たせるよう質の向上を図っていく必要があります。
- 在宅介護を支える介護保険事業所においては、在宅医療と連携し看取りを行っていますが、経験の蓄積がまだ十分でないことから、終末期を支えることに不安を抱いており、特に在宅介護の中心的役割を担う介護支援専門員と訪問介護員の人材育成が急がれる状況です。医療・介護連携による在宅等における「看取り」についての理解促進（事業者・住民）を図る必要があります。

【今後の取組】

＜既存の医療・介護資源の効果的・効率的な取組と質の向上＞

- 医療と介護の質の高い連携促進のため、医療職・介護職・介護支援専門員を対象とした診療報酬・介護報酬などの制度全般等について、医療と介護の相互理解が必要な内容を取り入れた合同研修会を開催します。また、研修を通して相互理解や各々の資源を有効に活用できるようつなげていきます。
- 在宅医療と在宅介護のより良い連携・協働を進めるため、地域の基幹病院（市立三次中央病院、庄原赤十字病院）や関係組織（三次・庄原地区多職種連携会議等）と連携し、介護職に対して医療の必要な対象者への身体介護に関する研修会の開催に向けて取り組みます。また、研修会受講者による集まりの場の設置等、継続的な情報交換や情報共有をすることによる横のつながりを支援します。

＜市を越えた医療・介護資源に関する情報の共有と見える化＞

- 圏域情報の把握や取組状況の集約を行うとともに、課題等の解決に向けた検討に関しては、ワーキング会議の場を継続的に活用します。
- びほくいいききネットによる医療機関・介護福祉サービスに関する総合的なデータベースを活用するとともに、メール連絡網における対象施設の拡大を図るなど、市町の枠を越えた地域資源の情報共有について、広島県備北保健医療福祉推進協議会と連携し取り組んでいきます。

＜医療・介護連携による在宅等における「看取り」についての理解促進＞

- 訪問看護ステーションや介護職が関わった看取り事例集の作成や事例検討会を行い事例の共有を図るとともに、介護職の関与のあり方や役割を整理し、介護の現場へ内容を発信します。
- 人生の終末期に関する本人の意思決定を支援するため、事業者、住民に対して、在宅での看取りについて、関係機関と連携し普及啓発を図ります。

＜備北圏域を広域的に包括する先進的な関係組織＞

- 三次・庄原地区多職種連携会議

高齢者の健康や生活を支援し、在宅療養を推進するには、医療・介護の連携が不可欠です。

備北圏域では、平成 22（2010）年に広島県看護協会三次・庄原支部が中心となり、多職種連携会議を立ち上げました。保健・医療・福祉の分野の従事者が「顔の見える関係」を構築するために、定期的に一堂に会する交流の機会を設けています。

また、研修会等を開催し、それぞれの専門的な知識を持ち寄り、職種や関係機関を超えて情報を共有し、連携上の課題抽出や対応策を協議することにより、現場での実績につなげていきます。

- 広島県備北保健医療福祉推進協議会（びほくいいききネット）

備北地域の医療・福祉の総合情報提供システムを構築するために、三次地区医師会と広島県老人福祉施設連盟三次ブロックが、平成 26（2014）年に立ち上げました。①備北地域の医療機関や介護・福祉サービスに関する総合的なデータベースの構築 ②医療機関や介護・福祉サービスに従事する者の円滑な業務の遂行・連携の強化 ③住民への情報提供、を目的としたホームページ「びほくいいききネット」を開設し、地域に密着した、保健・医療・福祉（介護を含む）の連携体制づくりに取り組んでいます。